

松戸市緑推進委員会

第5期委員会の活動報告と提言



平成22年6月

松戸市緑推進委員会

表紙の写真

里やまボランティア 入門講座 実習風景	緑と花のフェスティバル 2009 ステージ発表	第5期緑推進委員会 本委員会 会議風景
第5期緑推進委員による 市内視察 視察風景	緑推進委員会 10周年記念植樹 植樹式風景	コミュニティーガーデン 「戸定みんなの庭」 作業風景
みどりの行動会議 会議風景	みどりの再発見ツアー (常盤平) ツアー風景	里やまボランティア 入門講座 打合せ風景

平成22年6月29日

松戸市長 川井 敏久 様

第5期松戸市緑推進委員会
会長 田代 順 孝



第5期委員会の活動報告と提言

松戸市緑推進委員会は、平成20年7月1日付けで委嘱を受け、「松戸市緑の基本計画」に掲げた、緑の保全及び緑化の推進等に係る重要課題の解決や緑の現状を踏まえた今後の対応のあり方について、慎重かつ精力的に検討を重ねて参りました。

このたび、みどりの松戸づくりに向けて別紙のとおり委員会の総意として、「第5期委員会の活動報告と提言」を作成しました。その中で、今後10年間において重点的に取り組むべき課題として、下記の5項目を掲げ、取りまとめましたので、ここに提出します。

記

1. 市民、行政、関係機関・団体などを結ぶ双方向の情報共有システムの整備
1. 地域の緑資源再評価およびネットワーク化施策の発展
1. 21世紀の森と広場をはじめとした市民参加型パークマネジメントプランの構築
1. 市民参加活動の強化とみどりの顕彰制度の創設
1. 松戸版グリーンスペースの設立と行政内部での横断的かつ有機的連携の強化

以上

第5期松戸市緑推進委員会の活動報告および提言にあたって

第5期松戸市緑推進委員会はこれまでに本会議、小委員会、部会、行動会議及びアクションという多様な活動を行ってきています。今回委員会の任期満了に当たって慣例の成果報告及び提言を行うことになりました。提言に当たって一言述べさせていただきます。

本委員会の特徴はなんと言っても多様な活動にあるといえます。松戸市の緑推進のあり方を大局的に審議する本委員会のほかに、部会や小委員会を設け、本委員会での討議を補助してきています。さらに、部会では、検討内容のうち実践可能なものについては試行をし、その成果を本委員会を通して行政施策に反映するというかたちをとってきており、その運営スタイルが定着し、成果を生んでいることに特色があるといえます。今期委員会でも、4期委員会が関わった「松戸市緑の基本計画」の改定を受けて2つの部会が設けられ、積極的に活動を展開してきました。

次に、委員会が発議し、展開した協働事業が成長期に入ったことがあげられます。現在、市域ではさまざまな主体が緑の保全育成に取り組んでいますが、なかでも「松戸里やま応援団」をはじめとする樹林地保全ネットワーク、花壇づくりネットワーク、みどりの行動会議などの活躍が目覚しいといえます。「松戸市緑の基本計画」の策定時（平成10年）には胎動期であった市民と行政の協働による緑の保全育成活動は、改定までの約10年の間に大きな進展を見せていますが、本書「委員会の継続活動」「その他関連する活動」に見られるように、その主要な活動は本委員会の部会による発意と試行から生まれています。このような本委員会の役割は極めて重要であり、かつ今後とも発展・継承されるべきであると考えます。

このような委員会活動を展開し、独特な運営・活動上の特色を携え、上記のような成果を生み出してきています。しかし、その一方で実践的な活動に重きをおいたために、本来の目的である緑推進行政のあり方についての審議・提言が弱かったという反省もあります。今期委員会では、その反省も踏まえ、平成20年度に改定された「松戸市緑の基本計画」では、前述したような「みどりの市民力」の充実を施策に位置づけましたが、その実現・展開のためには「みどりの行政力」の強化が車の両輪のごとく必須であるという意見の一致を見ました。松戸市の緑行政は、成長期にある「市民力」を背景に、いわゆる行政の縦割り構造の弊害を廃し、緑行政に関係する多様な部署、関係機関が連携を深めて、さらに機能性に富んだ施策の展開を図る時期にきていると考えます。

平成22年6月

第5期松戸市緑推進委員会
会長 田代順孝

松戸市緑推進委員会「第5 期委員会の活動報告と提言」

目 次

1. 第5 期委員会の活動の方針	-----	1
2. 第5 期委員会活動の成果	-----	2
2.1 緑推進委員会の継続的活動	-----	2
2.1.1 緑推進委員会および部会、小委員会の開催	-----	2
2.1.2 委員会活動に関わる広報ほか	-----	2
2.1.3 21世紀の森と広場部会	-----	2
2.1.4 地域のみどり活性化部会	-----	3
2.1.5 みどりの行動会議	-----	4
2.2 その他の関連する活動	-----	5
2.2.1 松戸市緑推進委員会10周年記念植樹	-----	5
2.2.2 里やまボランティア入門講座	-----	5
2.2.3 松戸花壇づくりネットワークの活動	-----	6
2.2.4 根木内歴史公園プロジェクト（IFPRA KOREAでの紹介）	-----	6
2.2.5 みどりのまちづくり研究・活動報告会	-----	6
2.2.6 緑推進委員会の活動紹介（IFPRAジャパン事例集）	-----	7
3. 「緑推進を図るためのきめ細やかな施策と新たな仕組みづくり」に関する提言	-----	8
4. 第6期委員会に引き継ぐ課題	-----	9
4.1 従来の委員会活動の考え方の継承	-----	9
4.2 「緑推進を通じた都市づくり」に向けた委員会活動の展開	-----	9
4.3 委員会の機能の再編	-----	9
5. 参考資料	-----	10

1. 第5期委員会の活動の方針

第4期委員会では「第4期委員会の活動報告と提言」（平成20年6月30日付）において「重点的に取り組むべき施策の推進」として以下の5項を掲げ、また「5期委員会に引き継ぐべき課題」として「提言の実現に向けた推進体制と手法のモデルづくり」「本委員会が開発してきた活動手法の継承」「『緑推進から持続可能な都市づくりへ』の情報発信と広報」を要望した。

重点的に取り組むべき施策の推進

- ① 樹林地保全施策をより積極的に推進する
- ② パークマネジメントシステムを構築し、21世紀の森と広場を活性化させること
- ③ 地域の個性を生かした公園の再生と緑化の推進を図ること
- ④ みどりの市民力を強化し充実させること
- ⑤ これら重点施策を実現するための主体、方法、プロセス、しくみやそれを保証する制度を含めた推進体制を確立し、実現可能な枠組みや具体的なモデルを早期に提示すること

上記を受けて第5期委員会では、とくに以下の点に留意して委員会活動を進めることを基本的な方針とした。

- ・ 4期提言の「重点的に取り組むべき施策の推進」を積極的に進め、実現可能な範囲で具体的な推進体制のモデルを示す。
- ・ 4期までに培われてきた本委員会の活動手法の継承に努める。
- ・ 「重点的に取り組むべき施策の推進」においては、集中的かつ専門的な検討を進めるため、委員会内に部会を設け、本委員会との役割分担を明確にしたうえで、連携しながら審議を進める。
- ・ 委員会の運営上、必要に応じて小委員会を設置するが、小委員会と部会の違いは従来どおり以下のように位置づける。
 - 小委員会：当委員会のメンバー内で指名された構成員で任務を遂行する。
 - 部会：委員の自由参加による。また、本委員会委員以外でも必要とされる人員は、部会の判断により参加可能とする。

2. 第5期委員会活動の成果

2.1 緑推進委員会の継続的活動

2.1.1 緑推進委員会および部会、小委員会の開催

平成20年7月から平成22年6月までの2年間の任期中、9回の委員会を開催。このほかに、樹林地保全、公園再生、みどりの市民力の3つを包括し、地域レベルのみどりの活性化を検討する「地域のみどり活性化部会」と21世紀の森と広場の役割の強化を検討する「21世紀の森と広場部会」を設置し、検討を進めた。

また、第5期委員会の提言を検討するため、提言作成小委員会を設置し、会議を実施した。

2.1.2 委員会活動に係わる広報ほか

「緑と花のフェスティバル」(平成21年および22年4月29日開催)や再発見ツアーの後の振り返りなど様々な機会を活用して、以下に列記する委員会活動の広報等に努めた。

- ① 委員会の目的、役割、活動実績ならびに松戸市のみどりの現況や保全の取り組み等をパネル展示などで紹介した。
- ② 第2期委員会の提言により、平成16年10月に制定された「松戸みどりの市民憲章」の広報と普及。「松戸みどりの市民憲章」の制定は、第1期委員会の提言で「早急に取り組むべき課題」として第2期委員会に引き継がれ制定したものである。
緑と花のフェスティバルのステージ発表で千葉大学生や留学生によるみどりの市民憲章の発表
- ③ みどりの市民憲章と一体となった「みどりの行動計画2009～2010」を推進し、広報と普及に努めた。
- ④ 松戸のみどり再発見ツアー「みどりを訪ねて歩いてみよう」を行動会議で企画実施した。
- ⑤ 第2期委員会の樹林地保全部会による取り組みから生まれ、毎年継続して開催されている入門講座及び松戸市における「里やまボランティア活動」の広報に努めた。

2.1.3 21世紀の森と広場部会

21世紀の森と広場部会は、21世紀の森と広場の活性化の実現方策を検討することを目的に設置され、緑推進委員会委員6名、推薦された市民委員1名、みどりと花の課および21世紀の森と広場管理事務所の職員から組織された。

平成21年度から、計6回の部会を開催し、①視察用ビデオの視聴や公園視察、②公園管理運営の現状や課題の整理、③マネジメントプランの骨格やプラン策定手順の検討、などを実施した。その結果、次のような基本的な提案がなされた。

- ・ 21世紀の森と広場の活性化を進めていく上で、パークマネジメントプラン(公園の魅力づくりプラン)を策定する。
- ・ 21世紀の森と広場パークマネジメントプランを策定するに当たり、①マネジメントプランの意義・目的、②マネジメントプランの全体構成と検討内容、③マネジメントプランの策定の方法、を明確化する。
- ・ 市民参加型・協働型の取り組みを基調としたプランの策定と実施を試行する。

今後、これらの提案を踏まえつつ、部会で抽出されたキーワードや具体的な課題や提案を踏まえ、仮称「21世紀の森と広場パークマネジメントプラン」の策定を目指していく必要がある。

2.1.4 地域のみどり活性化部会

地域のみどり活性化部会は、地域の樹林地と公園などの緑地を結びつけ（地域のみどりのネットワーク化）、その保全、利用の促進を図る方策を検討する目的で設置。緑推進委員会委員7名とみどりと花の課職員により組織された。

本部会では、みどりのネットワーク化を推進するモデル地区として、常盤平・金ヶ作地区を以下の理由から選定。この隣接する地区において「みどり」をテーマとした地域交流を進めることにより、上記の方策を実証的に検討することとした。

- ・常盤平地区には、松戸市内でも「緑園都市」的な居住環境を持つ常盤平団地があり、金ヶ作地区には農地・樹林地が多く残り、また里やまボランティアの活動フィールドも複数存在する。
- ・常盤平地区は地域自治の活動が活発で、近年は地域の緑化に関わる活動のほか、地域住民と地域外住民の連携による地域活性化の新しい活動なども芽生えている。
- ・地域の少子高齢化が進み、公園や広場の利用形態が変化してきたため、緑地保全のうえからも、新たな活用の促進が望まれる。
- ・点的ではあるが、さまざまな主体による地域・市民活動が存在するため、これらに関係づけることにより、みどりの保全・緑化推進を面的に展開していける可能性がある。

本部会は、会議のほか延べ4回にわたって現地調査を繰り返し、その結果に基づき両地区の交流を進める第一弾として「みどりのガイドツアー」を企画。みどりの行動会議が進める「松戸のみどり再発見ツアー」とも連動して、以下のガイドツアーを実施した。

その成果から、地域の活動団体との積極的な連携を図ることにより、地域のみどりのネットワーク化を推進していく可能性が垣間見え、今後はその具体的な展開が望まれる。

松戸のみどり再発見ツアー③

昭和のガーデンシティと松戸の里山を訪ねる

平成 22 年 4 月 6 日(火) 常盤平地区 参加 49 名

平成 22 年 4 月 13 日(火) 金ヶ作地区 参加 41 名

2.1.5 みどりの行動会議

みどりの行動会議は、松戸みどりの市民憲章の制定を機に、その普及・啓発と憲章の精神を反映した具体的な行動を推進するために設立された。

過去には、「木に名札を付けよう」（2005～2006年度）、「みどりのマップを作成しよう」（2007～2008年度）の活動を推進してきた。

2009年度からは、「みどりを訪ねて歩いてみよう～松戸のみどり再発見～」をテーマに、市内に存在するみどりの資源や市民団体等の活動を巡る「松戸のみどり再発見ツアー」を実施した。

このツアーの基本的な考え方は、①「松戸みどりの市民憲章」と関連づけた活動を実施すること、②意外と知らないことや気をつけてわかる「再発見」を大切にすること、③楽しさだけでなく、「気づきや行動」につながることに、④様々な主体にとって意味のある「タイアップ型の企画」を実施すること、⑤みどりのマップの作成など「成果の発信」を考えること、である。

昨年度から、実施したツアーは5テーマ、計7回であり、延べ参加者数はスタッフを含めて320名に達した。

- ・テーマ1：知られざる千駄堀の魅力を発見する
2009年11月に千駄堀地区にて実施。参加者数50名。
- ・テーマ2：千駄堀・森の自然観察とクリーンアップ
2010年2月に千駄堀地区にて実施。参加者数34名。
- ・テーマ3：昭和のガーデンシティと松戸の里山を訪ねる
2010年4月に常盤平・金ヶ作地区にて、2回シリーズで実施。参加者数延べ90名。
- ・テーマ4：21世紀の森と広場おもしろ話
2010年4月の「緑と花のフェスティバル」際に、21世紀の森と広場にて2回に分けて実施。参加者数延べ77名。
- ・テーマ5：高塚～秋山 新緑の森を巡る
2010年5月に、東松戸・高塚・秋山地区にて実施。参加者数69名。

今後とも、「松戸のみどり再発見ツアー」を実施していくが、ツアーの成果のとりまとめ（マップ等）や、地域に存在する多様な市民団体との連携とまちづくりへの展開、(財)松戸みどりと花の基金との協力などが課題となる。

2.2 その他の関連する活動

2.2.1 松戸市緑推進委員会 10周年記念植樹

松戸市緑推進委員会は平成12年7月に松戸市緑の条例に基づき発足した。

緑豊かな都市環境の形成を図り、健康で安全かつ快適な市民生活の確保を目的とした条例の趣旨に従い、緑の保全および緑化の推進に関する基本事項について、調査・審議・提案する委員会として発足し、平成22年6月末で10年となる。

これを機に、緑化の推進が一段と進展するよう祈念すると共に、各委員が率先して、この運動に貢献しようとする証として緑推進委員の現・前・元委員に呼びかけ、33名（資料参照）のご賛同を得て10周年記念植樹を実施した。

平成22年2月15日に、緑推進委員会の委員の出席により、八ヶ崎水戸街道一里塚の地（国道6号線沿植栽地）にエノキを植樹した。

2.2.2 里やまボランティア入門講座

第2期委員会樹林地部会の発案により、平成14年に第1期を開講して以来、平成21年度で7期目になる。毎年講座の修了者は、自主的に樹林地保全活動団体を設立して活動に入っているが、平成20年度の6期修了者は「松戸里やま応援団 小浜の森の会」を、7期修了者は「松戸里やま応援団 七喜の会」をそれぞれ組織し、活動を開始した。

松戸における里やま活動団体は、これにより全部で11団体、フィールドは15カ所、活動人員は約160名+200家族にまで広がっている。また、松戸市における里やま講座と修了者による活動には、他にはあまり例のない以下のような特色がある。

- ・ 講座のプログラムが「松戸オリジナル」であり、市民、行政、中間組織の3者協働で開講されていること。
- ・ 講座修了者が、自主的に団体を組織して活動に入っていること。
- ・ 修了者による団体が「松戸里やま応援団」としてネットワークし、互いに活動を助け合う「緑のコミュニティー」を形成していること。
- ・ 活動場所が公有地ではなく、民有の樹林地であること（一部公園を含む）。
- ・ 講座修了者が、新たな緑の担い手育成の主体として携わっていること。

加えて、委員会の今会期中、上記の里やま活動には以下のような新たな進展があった。

- ・ 里やま応援団の各期団体をつなぐネットワーク組織として「里やま応援団」が結成された。
- ・ 里やま応援団が、地権者および市と管理協定を結び、共同管理する樹林地が2カ所誕生した。
- ・ 樹林地保全活動に取り組む人員のスキルアップ（内容は管理・安全・生態・制度など）を図るための「ステップアップ講座」が、里やま応援団を主体として自主的に開講されるようになった。

2.2.3 松戸花壇づくりネットワークの活動

松戸花壇づくりネットワークは、第2期委員会の「パートナーシップによる緑の育成管理方策検討部会」の活動をきっかけとして、平成17年に発足した。花壇づくり団体の情報交換や人的交流の拡大を図ることを目的としているが、緑と花のフェスティバルやみどりの行動会議への参加などを通して、本委員会と密接な協力関係を築いている。

また、平成19年4月に開園した東松戸ゆいの花公園においては、同ネットワークが公園内の花壇づくりに参画することにより、交流・情報交換が活発に行われている。ここで得られた技術が、地域における花づくりに還元されている。

平成21年～22年、ちば国体に向けての「おもてなしの花」の育成に取り組み、種から花を栽培する技術の習得に励み、成果を上げている。

さらに、平成22年度より、新たに立ち上がった団体への花づくりの技術支援を行っている。

2.2.4 根木内歴史公園プロジェクト (IFPRA KOREA での紹介)

平成18年4月に開園した根木内歴史公園は、都市公園の保全・管理に市民ボランティアが参画した松戸市で初めての事例である。

平成22年現在では「根木内歴史公園サポーター・根っこの会」によって、公園管理者（公園緑地課）と協力して、公園の保全・管理・利用に関する取り組みが行われている。

平成22年2月26日、韓国で開催された、IFPRA KOREA（国際公園・レクリエーション管理行政連合の韓国国内会員による任意団体）の設立会議において、「市町村レベルの都市公園のマネジメントプラクティス」の好例（グッドプラクティス）として、田代順孝千葉大学教授によって「根木内歴史公園プロジェクト」が紹介された。

このような、国内外における情報の交流を通じ、市民や行政など各主体にとっては、世界や日本で行われている様々な活動を知ることができ、その中から自分たちの活動の相対的位置を確認することもできる。

今後もIFPRAに限らず、国内外に向けて情報発信・情報収集を継続していくことが望まれる。

2.2.5 みどりのまちづくり研究・活動報告会

平成22年3月24日、松戸市勤労会館にて催された本報告会は、千葉大学園芸学部、(財)松戸みどりと花の基金ならびに松戸のみどりと花の課による共催事業である。

松戸市内で実施された千葉大学園芸学部の研究・活動成果を中心に、みどりの行動会議、松戸市、(財)松戸みどりと花の基金での活動トピックを加え、これまでの「みどりと花のまちづくり」を振り返りながら、今後の展開を語り合った。

以前にも、行政と学生との間で、情報提供と研究成果に関する報告会は行われてきたが、緑のボランティアを含めた多くの市民に開かれた形で報告会を開催したのは今回が初めてである。

緑推進委員でもある柳井重人千葉大学准教授の開催挨拶と趣旨説明に始まり、松戸市内を研究テーマとした3つの学生による研究発表と、ISO学生委員会による「戸定みんなの庭の会」の活動報告、みどりの行動会議からは「松戸のみどり再発見ツアー」の活動報告、行政からは都市緑地法に基づく全国初の緑地管理協定締結の報告、最後に松戸みどりと花の基金の活動とその展望が紹介された。

出席者56名と予想をはるかに上回る参加を受け、今後もみどりのまちづくりに関する報告会等を継続的に行い、お互いの情報共有と交流の輪を広げていくことが重要であることが再確認された。

2.2.6 緑推進委員会の活動紹介（IFPRA ジャパン事例集）

IFPRA とは 1957 年に発足した、「国際公園レクリエーション管理行政連合」の略称である。

(International Federation of Park and Recreation Administration)

「公園、レクリエーション、アメニティ、余暇対策及びそれらに関連するサービスの振興のために、国際的な関係を促進させること」を目的として、世界各国の公園緑地やレクリエーションの実務家・専門家により各種事業が行われている。

日本においては、IFPRA ジャパン（国際公園・レクリエーション管理行政連合の日本国内会員による任意団体）として各種活動が行われている。

IFPRA ジャパンでは、2004 年に開催された「公園レクリエーション世界大会 in 浜松（第 20 回 IFPRA 世界大会）」で採択された「浜松宣言」の趣旨を国内外の公園やみどりの管理運営に広く普及させ、実践される事を目指し、活動の事例を募集・紹介している。

本委員会活動が、3 つの行動指針の 2 「地域住民・行政・企業・関連分野とのパートナーシップ確立の事例、及び能動的で魅力ある運営計画実践の事例」の一つとして、日本におけるグッドプラクティスであり、国内はもとより世界に向けて発信するべきとの田代会長による推薦を受け、IFPRA ジャパンのホームページで紹介されている。

2010 年 11 月、香港にて世界大会が行われる際に、全世界の関係者に向けて配布される事例集に本委員会の活動に関する記事が掲載される予定である。

IFPRA KOREA (2.2.4) の項でも述べたが、国内外における情報の交流・交換を通じ、地域横断的な取り組みへの検討を委員会としても更に進めていきたい。

3. 緑推進を図るためのきめ細かな施策と新たな仕組みづくりに関する提言

都市の緑は、気候変動の調節機能、生物多様性の保全機能、安心・安全な生活環境の構成要素、ふるさと景観を保全・創出する資源などの観点から、住みよい都市形成にとってきわめて重要な価値を持っている。今日では、これらの価値を持つ緑の保全や新たな創出において、行政と市民がきめ細かな連携の下に、多様かつ実効性のある施策を展開することが不可欠であるという社会的な共通認識が醸成されている。こうした背景を受けて、第5期松戸市緑推進委員会では多面的かつ総合的な審議と併せ「地域のみどり活性化部会」「21世紀の森と広場活性化部会」および「みどりの行動会議」などにおいて実践的な活動を行い、松戸市の緑のあり方について、新しいまちづくりを視野に入れて検討してきた。

本委員会では、市域に存在する多様で個性的な緑資源が、現在および将来の市民生活にかけがえない価値を有していること、そしてそれら緑を適正に保全・活用する施策の展開は、今日新たな局面に入っているという共通認識が得られた。さらに、今後はいっそうきめ細かな緑推進の施策が必要であり、施策実現に向けた新たな仕組みづくりが必要であるという見解に達した。それら検討結果に基づき、以下の5項を本委員会の提言とする。

提 言

1. 市民、行政、関係機関・団体などを結ぶ双方向の情報共有システムの整備

今ある緑が「住みよい都市」を実現するために必須要素であり、重要な価値を有するという意識をさらに高めるため、市民、行政、関係機関・団体などを結ぶ双方向の情報共有システムを整備し、緑諸事業と直結させること。

2. 地域の緑資源再評価およびネットワーク化施策の発展

市民の目線に立って地域の緑の再評価を行い、様々な緑資源をつないで“歩きながら体感できる緑のまちづくり”など、緑資源のネットワーク化施策を発展させること。

3. 21世紀の森と広場をはじめとした市民参加型パークマネジメントプランの構築

公園を活性化させるための再評価を行い、市民参加型パークマネジメントを構築し、21世紀の森と広場を手はじめとするマネジメントプランの構築に着手すること。

4. 市民参加活動の強化とみどりの顕彰制度の創設

樹林地管理、花壇づくり、講座運営など市民参加活動をよりいっそう強化させ、組織の活性化と円滑な更新を志向し、功労者に対する顕彰制度の創設を図ること。

5. 松戸版グリーンスペースの設立と行政内部での横断的かつ有機的連携の強化

「みどりの市民力」を強化する活動の一環として情報交流、人材育成、事業展開、緑推進ファンドの確保などを行うための市民組織（仮称「松戸グリーンスペース」）の立ち上げを目指すこと。同時に、緑推進を戦略的かつ効果的に展開するために庁内関係部局の有機的連携を強化する市長直属機関を設置すること。

4. 第6期委員会へ引き継ぐ課題

4.1 緑の基本計画の推進と進行管理

緑推進委員会の最も重要な役割である緑の基本計画の推進と進行管理（PDCA）に関連し、緑施策とその実績の評価・見直しの方法を明確にする。また、緑施策の評価・見直しに係る市民参加の可能性を検討する。

4.2 従来の委員会活動手法の継承

従来から、緑推進委員会では、重点的に取り組むべき課題への対応のための体制づくり、先導的プロジェクトの試行から実践・普及までの橋渡しを行ってきた。今後も、このような委員会の活動手法を継承していく。

4.3 「緑推進を通じた都市づくり」に向けた委員会活動の展開

松戸市の都市づくりに果たす緑の役割を認識し、「緑推進」から、「緑推進を通じた都市づくり」を基本的な理念・目的とする委員会への脱皮を図る。そのために、緑を通じた持続可能な都市づくりへの情報発信と広報の充実を図るとともに、「緑推進を通じた都市づくり」のリーダーシップを発揮すべく、領域横断的・総合的（都市、農政、環境、緑に関連する政策）な調査・審議や活動の展開を図る。これらを実現できるような委員会の運営方法などを検討する。

4.4 委員会の機能の再編

従来から、緑推進委員会の特長となっている「行動する委員会」としての活動のみならず、将来動向を見据えた中長期的課題に対する調査・審議をより一層充実させる。そのために、「部会」や「小委員会」との関係整理や、役割分担の明確化を図る。加えて、「みどりの行動会議」の位置づけを強化し、実践・行動を推進するとともに、緑推進委員会との連携を促進する。

5. 参考資料

参考資料目次

資料 1	「第 5 期松戸市緑推進委員会委員名簿」
資料 2	「第 5 期松戸市緑推進委員会の開催概要」
資料 3	「提言書作成小委員会委員名簿」「提言書作成小委員会の開催概要」 「21 世紀の森と広場部会委員名簿」
資料 4	「21 世紀の森と広場部会の開催概要」 「地域のみどり活性化部会委員名簿」
資料 5	「地域のみどり活性化部会の開催概要」
資料 6	「みどりの行動会議委員名簿」
資料 7	「みどりの行動会議開催概要」
資料 8	「松戸のみどり再発見ツアー①」写真
資料 9	「松戸のみどり再発見ツアー②」写真
資料 10	「松戸のみどり再発見ツアー③-1」写真
資料 11	「松戸のみどり再発見ツアー③-2」写真
資料 12	「松戸のみどり再発見ツアー④」写真
資料 13	「松戸のみどり再発見ツアー⑤」写真
資料 14	「松戸市緑推進委員会 10 周年記念植樹寄付者名簿」
資料 15	「松戸市緑推進委員会 10 周年記念植樹式」写真
資料 16	「里やまボランティア入門講座 2009」
資料 17	「花壇づくりネットワーク」写真
資料 18	「根木内歴史公園」写真
資料 19	「根木内歴史公園 IFPRA KOREA での紹介」
資料 20	「みどりのまちづくり研究・活動報告会」
資料 21	「緑推進委員会の活動紹介（IFPRA ジャパン事例集）」

第5期委員会の委員構成表 第5期松戸市緑推進委員会委員名簿

<役 職>	<氏 名>	<所 属 等>
会 長	田代 順孝	千葉大学大学院園芸学研究科教授
会長代理	柳井 重人	千葉大学大学院園芸学研究科准教授
委 員	平岡 考	(財)山階鳥類研究所専門員
委 員	末満 宗治	松戸史談会相談役
委 員	高橋 清	河南環境美化の会会長
委 員	高橋 盛男	緑のネットワーク・まつど
委 員	真嶋 好博	千葉県樹木医会
委 員	中村 一栄	松戸市市民農園連絡協議会
委 員	吉野 寅二郎	松戸ふるさと森の会会長
委 員	川上 和子	市 民
委 員	山下 正徳	市 民
委 員	山田 京平	市 民
委 員	野坂 みよ	市 民
委 員	中島 敏夫	市 民
委 員	山森 通男	市 民

参考資料 2

第 5 期委員会の開催概要表

第 5 期松戸市緑推進委員会の開催概要

〈 委員名称 〉	〈 開催日 〉	〈 議 題 〉
委 嘱 式	平成 20 年 7 月 4 日	・ 会長の選任
第 1 回委員会	平成 20 年 10 月 3 日	・ 第 5 期委員会で検討すべき議題 ・ 緑の基本計画改定版策定の進捗状況報告 ・ 第 1～2 回新委員勉強会の報告
第 2 回委員会	平成 20 年 11 月 14 日	・ 第 5 期委員会で検討すべき議題 ・ 緑の基本計画改定版策定の進捗状況報告 ・ 都市計画道路 3・3・7 号線と関さんの森との間にかかる問題について
第 3 回委員会	平成 21 年 2 月 17 日	・ 第 5 期委員会で検討すべき議題 ・ 緑の基本計画改定版策定について ・ みどりの行動会議報告 ・ 緑と花のフェスティバル 2009 への参加
第 4 回委員会	平成 21 年 5 月 21 日	・ 緑の基本計画改定版策定について 印刷・広報掲載の報告 ・ みどりの行動会議報告 ・ 各部会からの報告 ・ 緑と花のフェスティバル 2009 への参加報告 ・ 記念植樹について
第 5 回委員会	平成 21 年 10 月 2 日	・ 各部会からの報告 ・ みどりの行動会議報告 ・ 都市計画道路 3・3・7 号線と関さんの森についての報告 ・ 緑化地域制度検討中間報告
第 6 回委員会	平成 21 年 11 月 20 日	・ 記念植樹について ・ 各部会からの報告 ・ みどりの行動会議報告
第 7 回委員会	平成 22 年 2 月 15 日	・ 記念植樹について報告 ・ 各部会からの報告 ・ みどりの行動会議報告 ・ 第 5 期委員会の活動報告と提言について ・ 緑と花のフェスティバル 2010 への参加について
第 8 回委員会	平成 22 年 5 月 19 日	・ 各部会からの報告 ・ みどりの行動会議報告 ・ 第 5 期委員会の活動報告と提言について ・ 緑と花のフェスティバル 2010 への参加について報告 ・ 緑化地域検討について報告

参考資料3

第5期松戸市緑推進委員会「提言書作成小委員会」委員名簿

＜役 職＞	＜氏 名＞	＜所 属 等＞
座 長	田代 順孝	千葉大学大学院園芸学研究科教授
委 員	柳井 重人	千葉大学大学院園芸学研究科准教授
委 員	高橋 盛男	緑のネットワーク・まつど

第5期松戸市緑推進委員会提言書作成小委員会の開催概要

＜ 委員名称 ＞	＜ 開催日 ＞	＜ 議 題 ＞
第1回委員会	平成22年3月19日	・提言書原案の構成について
第2回委員会	平成22年5月10日	・提言書原案の作成について
第3回委員会	平成22年6月10日	・原案に対する本委員会での意見を受けた修正検討

第5期松戸市緑推進委員会「21世紀の森と広場部会」委員名簿

	＜氏 名＞	＜所 属 等＞
座 長	田 代 順 孝	千葉大学大学院園芸学研究科教授
委 員	柳 井 重 人	千葉大学大学院園芸学研究科准教授
委 員	末 満 宗 治	松戸史談会会長
委 員	真 嶋 好 博	千葉県樹木医会
委 員	中 村 一 栄	松戸市市民農園連絡協議会
委 員	川 上 和 子	市 民
オブザーバー	渋 谷 孝 子	市 民

参考資料 4

第 5 期松戸市緑推進委員会「21世紀の森と広場部会」の開催概要

	<開 催 日>	<議 題>
第 1 回部会	平成 21 年 4 月 17 日	・ 視察用ビデオ視聴 ・ 21 世紀の森と広場概要説明
第 2 回部会	平成 21 年 5 月 15 日	・ ガイド形式による公園視察
第 3 回部会	平成 21 年 7 月 2 日	・ ガイド形式による公園視察
第 4 回部会	平成 21 年 7 月 30 日	・ マネージメントについて全体俯瞰（ふかん）を目的としたワークショップ実施 ・ 骨格づくり、対象項目の抽出
第 5 回部会	平成 21 年 9 月 25 日	・ 骨格づくり ・ 緑推進委員会での中間報告の内容検討
第 6 回部会	平成 22 年 1 月 14 日	・ 魅力づくりプランの具体的な策定方法を議論 ・ 第 5 期緑推進委員会での報告（提言書）についての検討

第 5 期松戸市緑推進委員会「地域のみどり活性化部会」委員名簿

	<氏 名>	<所 属 等>
座 長	高橋 盛男	緑のネットワーク・まつど
委 員	高橋 清	河南環境美化の会会長
委 員	山下 正徳	市 民
委 員	山田 京平	市 民
委 員	野坂 みよ	市 民
委 員	中島 敏夫	市 民
委 員	山森 通男	市 民

参考資料5

第5期松戸市緑推進委員会「地域のみどり活性化部会」の開催概要

	＜開 催 日＞	＜議 題＞
第1回部会	平成21年 4月17日	・部会出席委員の拡大 ・部会検討テーマ
第2回部会	平成21年 5月13日	・意見交換
第3回部会	平成21年 6月17日	・常盤平から金ヶ作地区を現地視察（日程、ルート）
第4回部会	平成21年 7月27日	・現地調査のまとめ ・今後の活動について
第5回部会	平成21年 8月26日	・核になるコースを何にするか、ツアーの計画等意見交換 ・常盤平、金ヶ作地区を区割りし全調査を決定
第6回部会	平成21年10月 9日	・地図に区画割した地域調査の発表
第7回部会	平成21年12月 9日	・コースプランの発表 ・テーマを持ったコースをめぐるツアーの企画
第8回部会	平成22年 1月19日	・千葉大学 中島敏博氏による講義
第9回部会	平成22年 2月15日	・松戸のみどり再発見ツアー
第10回部会	平成22年 3月17日	・再発見ツアーの再検討及び役割分担について

参考資料6

みどりの行動会議の構成表

みどりの行動会議委員名簿

＜役 職＞	＜氏 名＞	＜所 属 等＞
座 長	柳井 重人	緑推進委員
委 員	田代 順孝	緑推進委員
委 員	高橋 清	緑推進委員
委 員	高橋 盛男	緑推進委員
委 員	真嶋 好博	緑推進委員
委 員	吉野 寅二郎	緑推進委員
委 員	川上 和子	緑推進委員
委 員	山下 正徳	緑推進委員
委 員	中村 一栄	緑推進委員
委 員	山田 京平	緑推進委員
委 員	野坂 みよ	緑推進委員
委 員	中島 敏夫	緑推進委員
委 員	三嶋 秀恒	緑推進委員OB
委 員	桑川 孝	緑推進委員OB
委 員	竹林 清	緑推進委員OB
委 員	流尾 哲也	緑推進委員OB
委 員	高木喜久雄	緑推進委員OB
委 員	渋谷 孝子	緑推進委員OG 緑のネットワーク・まつど
委 員	田中 玉枝	緑のネットワーク・まつど
委 員	武笠 紀子	緑推進委員OG 緑のネットワーク・まつど
委 員	北山 繁	松戸里やま応援団
委 員	山口 熙	松戸里やま応援団
委 員	田中 誠喜	松戸里やま応援団
委 員	野口 功	松戸里やま応援団

参考資料 7

みどりの行動会議開催概要

	〈 開催日 〉	〈 議 題 〉
第 23 回	平成 20 年 12 月 9 日	・ 緑と花のフェスティバル 2009 の準備、 行動計画 2009 のテーマ
第 24 回	平成 21 年 1 月 29 日	・ 行動計画のテーマと企画案
第 25 回	平成 21 年 3 月 3 日	・ 緑と花のフェスティバル 2009 の企画 (案) について
第 26 回	平成 21 年 3 月 21 日	・ 緑と花のフェスティバル 2009 について
第 27 回	平成 21 年 8 月 25 日	・ みどりの行動計画 2009 「みどりを 訪ねて歩いてみよう～松戸のみどり再 発見～」に対応したツアーを企画・実 施
第 28 回	平成 21 年 9 月 14 日	・ みどりの行動計画 2009 「みどりを 訪ねて歩いてみよう～松戸のみどり再 発見～」に対応したツアーとして、千 駄堀ミステリーツアー「(仮) 松戸の里 やま風景体験ツアー」の現場を歩き、 コース・プログラムを検討
第 29 回	平成 21 年 10 月 23 日	・ 松戸の里やま風景体験ツアーについて
第 30 回	平成 22 年 1 月 14 日	・ ツアー①千駄堀の反省
第 31 回	平成 22 年 3 月 17 日	・ みどりの再発見ツアーの下見 ・ 緑フェス詳細検討
第 32 回	平成 22 年 4 月 20 日	・ 緑と花のフェスティバル 2010 について
第 33 回	平成 22 年 5 月 19 日	・ 今後の再発見ツアーについて

松戸のみどい再発見ツアー①

知られざる千駄堀の魅力を発見する

2009年11月29日(日)9:30～14:30

参加者:50名(一般+スタッフ)

八柱駅～しんやまの森～カボチャ見学～

千駄堀集会所～21世紀の森と広場～八柱駅

昼食後:「ふりかえり」・松戸みどりの市民憲章の紹介など

みどいの行動会議



隊長:柳井先生



これは何でしょう?



これはブナノ葉



みどりの市民力:松戸里やま応援団の話



しんやまの森で全員集合



参考資料 8

千駄堀集会所でふりかえり



ドングリのできる樹



21世紀の森と広場で「面白話し」

松戸のみどり再発見ツアー②

千駄堀＊森の自然観察&クリーンアップ

2010年2月14日(日) 9:30~14:00

参加者: 34名 (一般+スタッフ)

八柱駅へしんやまの森〜クリーンアップ〜千駄堀集会所〜八柱駅

昼食後: 「ふりかえり」 松戸のみどりを守る緑の担い手 活動紹介

緑のネットワーク・まつど

松戸市みどりと花の課

みどりの行動会議



千駄堀集会所



渋谷さん 観察のご案内 田中さん



堀の向こうはゴミがいっぱい捨てられて〜



手入れされたしんやまの森でネイチャーゲーム



森のクリーンアップ 47

松戸のみどり再発見ツアー③ 昭和のガーデンシティと松戸の里山を訪ねる

参考資料 10

2010年4月6日(火)9:30～14:30
 参加者:49名(一般+スタッフ)
 常盤平駅～あべりあり公園～金ヶ作公園～
 えんじゅ、ユリノキ通り～中央商店街～メタ
 セコイヤ～星型住宅～常盤平体育館



受付終了後の説明風景



コースの説明



団地内での説明風景



さくらの中をみんなんで歩く



ふり返り風景



疲れてお父さんの腕の中



中央商店街でトキサイの代表によるお話を聞く



松戸のみどり再発見ツアー③

昭和のガーデンシティと松戸の里山の里山を訪ねる

2010年4月13日(火)9:30～14:30

参加者:41名(一般+スタッフ)

常盤平駅～ひまわり公園～困いやまの森～

育苗圃～立切の森～金ヶ作自然公園～

祖光院～熊野神社～金ヶ作自治会館～常盤平駅



金ヶ作; 農園の風景



ひまわり公園



立切の森にて



金ヶ作自然公園:「まつどあそぼうよ」の岡戸さんのお話



困いやまの森でお話を聞く



熊野神社



育苗圃のハーブ園にて



ひまわり公園で全員集合



金ヶ作自治会館でふりかえり

みどりの行動計画 2010

松戸のみどり再発見
～みどりを訪ねて歩いてみよう～

再発見ツアー④：21世紀の森と広場 おもしろ話

案内人：島村宏之（みどりと花の課）

野口 功（松戸里やま応援団）

参加者：30名＋47名



パークシアターでビデオ



緑推進委員会のテント



クイズに挑戦



再発見ツアーの案内



2010年5月9日(日)9:30~14:00

松戸のみどり再発見ツアー⑤

参加者:69名(一般+スタッフ)

JR東松戸駅~小浜屋敷の森~八幡神社の森~

高塚~秋山 新緑の森を巡る

秋山湧水~秋山の森~紙敷新田集会所

秋山の森で昼食、紙敷新田集会所にて「ふりかえり」



東松戸駅に集合



途中サイカチの森を横に見ながら小浜屋敷の森へ



小浜屋敷の森をあるく



八幡神社で休憩



夏にはホタルも出る秋山湧水



秋山の森にて



秋山の森でお弁当



紙敷新田集会所にてふりかえり

参考資料 1 4

松戸市緑推進委員会 10周年記念植樹寄付者名簿

	氏 名	
1	田代 順孝	会長
2	柳井 重人	会長代理
3	杉森 文夫	元委員
4	渡辺 幸三郎	元委員
5	末満 宗治	現委員
6	平岡 考	現委員
7	賀来 佳子	元委員
8	吉野 寅二郎	現委員
9	真嶋 好博	現委員
10	高橋 盛男	現委員
11	高橋 清	現委員
12	高橋 巳一郎	元委員
13	榎本 孝芳	元委員
14	中村 一栄	現委員
15	川上 和子	現委員
16	鈴木 正明	元委員
17	三嶋 秀恒	前委員
18	山下 正徳	現委員
19	菅 博嗣	元委員
20	渋谷 孝子	元委員
21	高木 喜久雄	元委員
22	田島 由子	元委員
23	中島 敏夫	現委員
24	野坂 みよ	現委員
25	山田 京平	現委員
26	山森 通男	現委員
27	門倉 邦雄	都市緑花担当部長
28	古賀 弘幸	みどりと花の課長
29	島村 宏之	みどりと花の課専門監
30	原 秀敏	公園緑地課長
31	大塚 清貴	みどりと花の課長補佐
32	原田 正一	21世紀の森と広場管理事務所長
33	小林 茂	みどりと花の基金事務局長

松戸市緑推進委員会 10周年記念植樹式



～身近な緑を知る・守る5つの体験～ 里やまボランティア入門講座



	日時	内容	講師・協力	会場
①	11月5日(木)	里やまって何だろう? ～身近な自然をどう見るか～	自然観察指導員 高野 史郎 氏	まつど市民活動 サポートセンター
②	11月12日(木)	都市の緑の役割 ～松戸の樹林地は今～ 松戸の緑の現状と将来 みんなで考える森づくり	千葉大学大学院園芸学研究所 准教授 柳井 重人 氏 みどりと花の課 小浜の森の会	東部市民センター (梨香台) 小浜屋敷の森
③	11月19日(木)	都市樹林が抱える課題 グループワーク	関さんの森を育む会 里やまプロジェクト	関さんの森 小金市民センター
④	11月26日(木)	森の手入れ体験とお楽しみ	三樹の会 金ヶ作の森を育む会	三吉の森 金ヶ作の森
⑤	12月3日(木)	まとめと交流	松戸ふるさと森の会 松戸里やま応援団グループ	21世紀の森と広場 パークセンター

* 講座時間:10時～15時

共催:松戸里やま応援団
まちづくり交流室テント小屋
松戸市みどりと花の課

参考資料 17

花壇づくりネットワーク



花壇見学会 (H20. 9. 26)



花壇づくりネットワーク



おもてなしの花育成



花壇づくりネットワーク



花壇見学会 (H21. 9. 28)



参考資料 18

根木内歴史公園



Ifpra Korea

IFPRA (국제 공원 및 레크리에이션 행정연맹)

"공원의 경영과 관리" 분야에 대한 국제 조차으로서 1967년 런던에서 개최된 제1회 공원 레크리에이션 세계 대회에서 정식 발족하였다. 공인 레크리에이션 아카데미 어가 대학과 관련되는

서비스의 진흥을 위한 국제적 네트워크 육진을 목적으로 하고 있으며 현재 세계 각국의 공원 녹지나 레크리에이션 실무자의 진로기의 참여 하여 각종 사업 활동을 펼치고 있다



국제 공원 및 레크리에이션 행정연맹 한국위원회 창립 기념 국제 심포지엄

INTERNATIONAL SYMPOSIUM FOR THE INAUGURAL ASSEMBLY OF IFPRA KOREA



일시 | 2010/2/26 13:00-18:00

장소 | 서울 프레스센터 국제회의장

주최 IFPRA Korea 창립총회 준비위원회
 주관 (사)한국조경학회
 후원 국토해양부 / 문화체육관광부 / 서울특별시
 협찬 (주)디자인파크개발 / (주)이노블럭
 (재)환경조경발전재단



○대상 공원

치바현(千葉県) 마츠도(松戸)시립 네기우치(根木内)역사 공원

이 공원은 1999년에 기본정비계획이 책정되어, 그 제언서 안에 환경보전 기법에서부터 체계적인 관리 시스템의 구축까지 구체적으로 지시하고, 행정 기관이 시민과 함께 관리-운영을 해 온 일본에서도 드문 도시 공원 사례이다. 제언 내용은 다음과 같다.

이 제언에 근거하여 그림에 나타낸 바와 같은 공원이 설계되고 정비되었다. 정비 완료 직후부터 자원봉사자에 의한 조직이 설립되어, 아래에 서술하는 바와 같은 조직이 활동을 시작하였다.

○対象公園

千葉県松戸市立根木内歴史公園

この公園は平成11年に整備基本計画が策定され、その提言書の中に環境の保全手法から、体系的管理のシステム構築まで具体的に指示し、行政が市民とともに管理・運営を行ってきた日本でもまれな都市公園の事例である。提言内容は以下のである。

この提言に基づき、図に示したような公園が設計され、整備された。整備完了直後からボランティアによる組織が設立され、以下に述べるような組織が活動を始めた。

제언서

공원계획지는 중세 성곽의 전형이라 할 수 있는 네기우치(根木)성의 일부이며, '토루', '물이 없는 해자', '토교(흙으로 덮은 다리)' 및 '유곽' 등의 귀중한 문화재와 유구가 현존하고 있다. 나아가 대지 상의 수림지 등 저지대의 습지에 의해 다양한 생물 서식 환경과 풍부한 경관을 지니고 있으며, 이는 사람들의 생활 속에서 오랜 세월이 걸쳐 축적된 귀중한 지역 자원이라고 할 수 있다. 또한 마츠도(松戸)시 종합계획에서는 '푸치 있는 역사 마을'로 규정하고, 마츠도시 그린 기본 계획에서는 '지역의 녹지와 수변 회랑' 조성의 거점으로 자리매김되어 있는 중요한 장소이다. 이러한 실정을 바탕으로 공원 정비에 있어서는 다음 사항에 유의하기를 바란다.

1. 현존하는 '토루', '물이 없는 해자', '토교(흙으로 덮은 다리)' 및 '유곽' 등의 귀중한 유구를 일체적으로 보전하는 것을 제일로 생각하고, 현황의 자연 지형을 최대한 살려, 시설 도입은 필요 최소한으로 한다. 동시에 역사적 사실과 문화재 조사 결과를 바탕으로, 시민이 유구를 가까이서 관찰하고, 성의 형태와 역사 등에 대해 이해할 수 있는 공원으로 만들 것.
2. 양호한 자연 환경을 유지하기 위해, 수림에 대해서는 적절한 보전 및 관리를 행하고, 균형 잡힌 수림 환경을 유지하는 데 노력한다. 습지에 있어서는 수위 확보에 충분히 배려하여 그 생태적 환경 유지를 위한 보전 대책을 강구할 것.
3. 시설 정비에 있어서는 '지역의 녹지와 수변 회랑'에 있어서의 거점이 되도록, 공원과 하천이 일체가 된 녹지 공간의 창조를 도모함과 동시에, 고령자나 장애우의 이용에 대해서도 충분히 배려할 것.
4. 또한, 필요에 따라 유구나 자연 환경에 대한 추적 조사를 실시하고, 그 결과를 공원의 유지 관리에 반영하여, 지역 주민의 참가에 의한 지속적인 관리 운영을 행할 것.
5. 이상의 사항을 바탕으로, 성터의 보다 일체적인 보전을 도모하기 위한 공원 구역 확대를 위해 노력하고, 질 높은 환경 창조의 실현을 도모할 것.

提言書

公園計画地は、中世城郭の典型といわれる根木内城の一部であり、「土塁」「空堀」「土橋」及び「曲輪」などの貴重な文化財や遺構が現存している。さらに有地上の樹林と低地部の湿地によって、多様な生物生息環境と豊かな景観を有しており、人々の生活なかで長い年月をかけて築き上げられた貴重な地域資源といえることができる。また松戸総合計画では「風薫る歴史のまち」として、松戸市緑の基本計画では「地域の緑と水辺回廊」づくりの拠点として位置づけられている重要な場所である。このような実情を踏まえ、公園整備にあたっては以下の事項に留意することを望む。

1. 現存する「土塁」「空堀」「土橋」及び「曲輪」などの貴重な遺構を一体的に保つことを第一と考へ、現況の自然地形を最大限に生かし、施設の導入は必要最小とする。同時に歴史的事実と文化財調査の結果をふまえ、市民が遺構を身近に観察し、の形態や歴史などについて理解できる公園とすること。
2. 良好な自然環境を維持するため、樹林については適切な保全及び管理を行い、バスのとれた樹林環境を維持することに努める。湿地については水源の確保に十分配慮その生態的環境の維持のための保全策を講ずること。
3. 施設整備にあたっては、「地域の緑と水辺の回廊」における拠点となるよう、公河川が一体となった緑空間の創造を図るとともに、高齢者や障害のある人の利用に十分配慮すること。
4. なお、必要に応じ遺構や自然環境についての追跡調査を実施し、その結果を公園持管理に反映し、地域住民の参加による持続的な管理運営を行うこと。
5. 以上の事項を踏まえ、城跡のより一体的保全を図るための公園の区域拡大に努め、の高い環境創造の実現を図ること。

○단체 명칭 :

네기우치(根木内)역사 공원 서포터

별칭 : 넝코(Nekko)의 모임

이 모임은 다음과 같은 목적을 내걸고 멤버를 늘려 왔다. 「다 함께 만드는 네기우치(根木内)역사 공원 (널리 시민들로부터 사랑 받고, 가까

○団体の名称 :

根木内歴史公園サポーター 別称 : 根っ子の会

この会は次のような目的を掲げてメンバーを増やしてきた。「皆でつくる根木内歴史公園 (広く市民に愛され、身近な自然とふれあ



이에 있는 자연과 접할 수 있는 장, 역사를 배우고 문화 교양을 넓히는 장의 조성)

이 조직은 2006년에 설립되어, 현재 회원수 27명으로, 매주 금요일에 정례 활동을 행하며, 한 달에 2번 모임을 갖고 있다. 그 밖에 조사 관찰을 행하고, 화력(花曆)을 작성하여, 홈페이지에 게재하고 있다.

조사 관찰에 있어서는 대학 연구실(타시로(田代)연구실)과 연계하여 박사 과정에 있는 대학원생이 과학적 조사법의 지도를 행하며, 정기적으로 연구회를 개최하여 회원의 기능 향상에 노력하고 있다.

이러한 내용들을 그림으로 나타내면 다음과 같다.

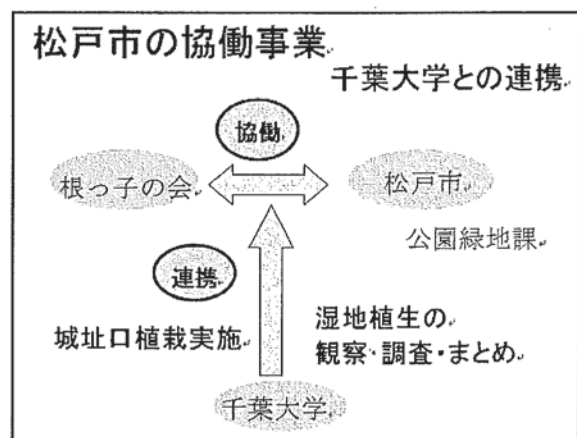
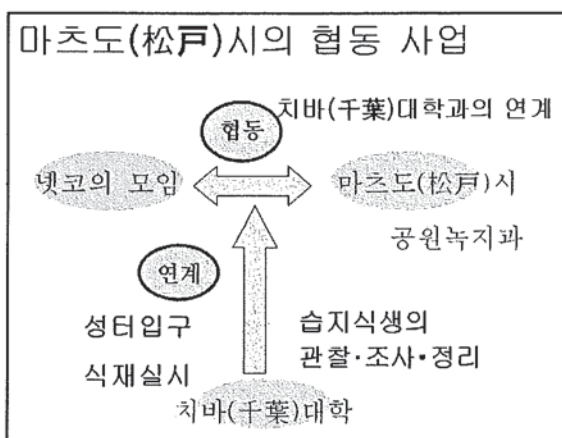


える場、歴史を学び文化教養を広げる場づくり)

この組織は2006年に設立され、現在会員数27名で、毎週金曜日に定例活動を行い、つきに2回のミーティングを行っている。そのほかに調査観察を行い、花暦を作成し、ホームページに掲載している。

調査観察においては大学研究室(田代研究室)と連携して博士課程の大学院生が科学的調査法の指導を行い、定期的に研究会を開催し、会員の技能の向上に努めている。

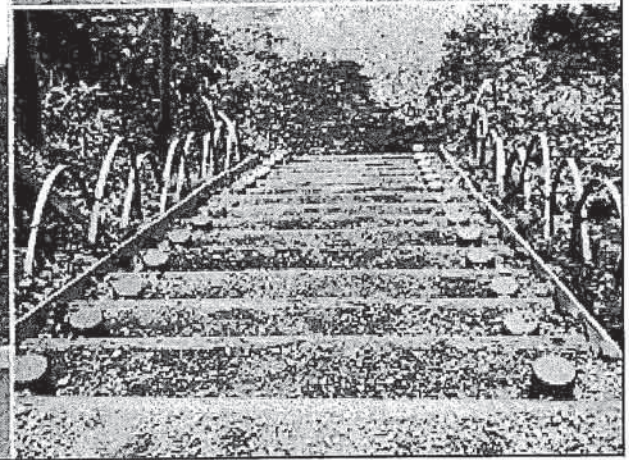
これらのことを図で示すと以下のようになる。



ボランティア作業

土塁の保護：
中央園路の竹フェンスを整備
(公園の竹を加工)

掲示板の改装と丸太イス
(チェーンソーも使用)



자원봉사 작업
토루(土口) 보호: 중앙원로의 대나무 펜스를 정비(공원의 대나무를 가공)
게시판의 단장과 통나무 의자(전기 톱도 사용)

이상이 Good Practice의 개요이다.

맺는 말

본 원고에서는 일본에서 일반적인 도시공원 관리체계와 그 프로그램의 하나로 시민참가형 매니지먼트 프렉티스의 사례 소개를 중심으로, 파크 매니지먼트(Park Management)기법 개발의 보급 계몽 활동에 IFPRA JAPAN이 어떤 식으로 관계하고 있는지 살펴보았다.

IFPRA JAPAN은 전국적인 조직이며, 시정촌(市町村)의 공원 관리에 직접 관계하는 일은 없으나, 정보 교류, 교환을 통해 시정촌(市町村), 시민단체가 상호 연계를 도모하는 프로모터로서의 역할을 담당해 오고 있다. 세계적인 조류를 국내의 행정조직과 시민단체에 이해시키는 일이 지니는 의의는 매우 크다. IFPRA JAPAN을

以上がグッドプラクティスの概要である。

終わりに

本稿では日本における一般的な都市公園管理の体系と、そのプログラムのひとつとしての市民参加型のマネージメントプラクティスの事例紹介を中心としてパークマネージメント手法開発の普及啓蒙活動にイフプラジャパンがどのように関わっているかを述べた。

イフプラジャパンは全国的な組織であり、市町村の公園管理に直接かかわることはないが、情報の交流・交換を通じて市町村屋や市民団体が相互に連携を図るプロモーターとしての役割を担ってきている。世界的な潮流を国内の行政組織や市民団体に理解してもらうことの意義は極めて大きい。イフプラジャパ

체험강좌 프로그램 전 5일간

기일	내용	강사·협력	행사장
5/26(화)	네기우치(根木内)역사공원과 역사 공원의 현황과 과제	공원녹지과 넛코의 모임(根っ子の会)	코가네(小金)시민센터 네기우치(根木内)역사공원
6/2(화)	공원 내의 자연을 이해하다 공원의 자연·공원의 꿈을 말한다	자연홍신사 田中利勝 텐트 오두막(テント小屋) 高橋盛男	코가네(小金)시민센터 네기우치(根木内)역사공원
6/9(화)	수림작업 체험 I & 버스 견학 수림지의 작업 시타다(下田)의 숲 견학	마츠도사토아미(松戸里 야마)응원단 下田の森 高橋昌代	네기우치(根木内)역사공원 시타다의 숲(下田の森)
6/23(화)	습지작업 체험 II & 즐거운 체험 습지의 작업·크라프트 만들기	넛코의 모임(根っ子の会) 마츠도사토아미(松戸里 야마)응원단	네기우치(根木内)역사공원
6/30(화)	향후 계획&수요식 자원봉사자의 할 일	그린 네트워크·마츠도 공원녹지과	코가네(小金)시민센터

GW: 2 회 실시, 마츠도사토아미(松戸里やま)응원단도 협력

体験講座プログラム 全5日間

期日	内容	講師·協力	会場
5/26(火)	根木内歴史公園とは 歴史公園の現状と課題	公園緑地課 根っ子の会	小金市民センター 根木内歴史公園
6/02(火)	公園内の自然を知る 公園の自然・公園の夢を語る	自然通信社 田中利勝氏 テント小屋 高橋盛男氏	根木内歴史公園 小金市民センター
6/09(火)	樹林作業体験 I & 버스見学 樹林地の作業 下田の森見学	松戸里やま応援団 下田の森 高橋昌代氏	根木内歴史公園 下田の森
6/23(火)	湿地作業体験 II & お楽しみ体験 湿地の作業・クラフトづくり	根っ子の会 松戸里やま応援団	根木内歴史公園
6/30(火)	今後に向けて & 終了式 ボランティアの取り組み	緑のネットワーク まつど 公園緑地課	小金市民センター

GW: 2回実施, 松戸里やま応援団も協力

통해 얻은 정보, 일본형 매니지먼트 시스템을 시정촌(市町村)이 독자적으로 구축해 가는 과정에서 대단히 유용하다는 평가를 받고 있으며, 세계 각국에서 어떤 시도가 이루어지고 있는지를 배우고, 그 안에서 자신의 상대적 위치를 확인할 수 있다고 하는 부분이 있다는 사실이 인식되기 시작하고 있다.

이번 발표는 매우 작은 일이지만, 새롭게 IFPRA 활동을 통해 국내의 공원관리 시스템의 구축을 검토하는 과정에서 이 발표가 도움이 되어, 앞으로의 검토 소재가 되었으면 하는 바램이다.

ンを通じて得た情報、日本型のマネジメントシステムを市町村が独自に構築してゆく上で極めて有用であるという評価を得ており、世界各国でどのような試みがなされていることを学び、その中から自己の相対的位置を確認できるというメリットがあることが認識され始めてきている。

今回の報告はきわめて小さな事柄であるが、新たにいIFPRA活動を通じて国内の公園管理のシステム構築を検討するうえでこの報告が役に立ち、今後の検討の素材としていただければ幸いである。

参考資料 20

「みどりと花のまちづくり」研究・活動報告会 2009

■主旨：

松戸市内で実施された千葉大学園芸学部の研究・活動の成果を中心に、みどりの行動会議、松戸市、(財)松戸みどりと花の基金での活動トピックを加え、今年度の「みどりと花のまちづくり」を振り返りながら、今後の展開を語り合うことを目的としています。

■日時：

平成22年3月24日(水) 17時30分～19時30分(開場17時)

■場所：

松戸市勤労会館2階会議室B Tel 047-365-9666

■プログラム(予定)：

- 17:00- 開場・受付
- 17:30-17:40 開会挨拶・趣旨説明 柳井 重人(千葉大学大学院園芸学研究科・准教授)
- 17:40-18:00 研究報告① 千葉県松戸市における街路樹管理の実態と課題に関する研究
野中 孝輔(千葉大学園芸学部緑地・環境学科4年)
- 18:00-18:20 研究報告② 東京近郊市街化調整区域の空き地の空間特性に関する研究
増田 恵(千葉大学園芸学部緑地・環境学科4年)
- 18:20-18:40 研究報告③ 民有樹林地の保全活動の実態と展開～松戸市の里やま活動を事例として～
門田 さやか(千葉大学園芸学部緑地・環境学科4年)
- 18:40-19:00 活動報告① 「戸定みんなの庭の会」のコミュニティ・ガーデン活動
杉山 愛子(千葉大学松戸・柏の葉地区環境 ISO 学生委員会)
- 19:00-19:10 活動報告② 「松戸のみどり再発見ツアー」の活動
柳井 重人(みどりの行動会議)
- 19:10-19:20 活動報告③ 都市緑地法に基づく全国初の緑地管理協定締結
島村 宏之(松戸のみどりと花の課)
- 19:20-19:25 活動報告④ 松戸みどりと花の基金の活動とその展望
小林 茂((財)松戸みどりと花の基金)
- 19:25-19:30 閉会挨拶 峯岸 照恭((財)松戸みどりと花の基金・理事長)
- 19:30- 閉会

司会進行：相沢章仁(千葉大学大学院園芸学研究科博士後期課程)

■参加費：無 料

■当日出席者：56名

■世話人：

千葉大学大学院園芸学研究科 柳井 重人
(財)松戸みどりと花の基金 小林 茂
松戸のみどりと花の課 島村宏之



Establishment of partnership amongst community residents, local governments, private companies and related sectors

地域住民・行政・企業・関連分野とのパートナーシップ確立



Implementation of the Master Plan for Parks and Open Spaces by the Promotion Committee for Green Environment

「緑推進委員会」による緑の基本計画の実践

Group : Matsudo city hall Urban development main division Urban greenery division Green & flower sec

団体名 : 松戸市 都市整備本部 都市緑花担当部 みどりと花の課

Main place of activities :

活動場所 : 松戸市内

Address : Matsudo city, Chiba Pref, JAPAN

所在地 : 千葉県松戸市根本 387-5

Contact / Department : Green and Flower Section, Urban Greening Office,

Urban Development Department, City of Matsudo

問合せ先 / 担当部局 : 松戸市役所みどりと花の課 / 保全班

e-mail : mcmidori@city.matsudo.chiba.jp

Website : <http://www.city.matsudo.chiba.jp/>



English Image text
みどりの行動会議



English Image text
東葛里やまシンポジウム



English Image text
里やまボランティア入門講座



English Image text
緑推進委員会によるイベントへの参加



English Image text
松戸花壇づくりネットワーク



English Image text
松戸花壇づくりネットワークによる花壇管理



Promotion of green planning through collaboration among citizens, businesses, local government, community groups, schools and universities

市民、企業、行政、市民団体、学校・大学の連携と協働による緑のまちづくりの推進

Aim

The Promotion Committee for Green Environment, comprising citizens, experts, and representatives of green organizations, was set up in 2000 by Matsudo City under its 1998 Master Plan for Parks and Open Spaces. As well as making recommendations to local government, the committee takes practical steps to get feasible proposals off the ground and develop them to the point where they are self-sustaining ongoing projects.

Activities

The Promotion Committee for Green Environment examines and evaluates Master Plan for Parks and Open Spaces, revising and improving the plan where necessary.

Specific activities include establishment of a Matsudo Green Citizens Charter, which sets out the basic philosophy of Matsudo's green planning, and a variety of other community-centered initiatives through Green Action meetings.

A framework for forest management partnerships is developed through the Satoyama Conservation Volunteers Training Course, which equips new supporters with the skills to care for neglected and degraded woodland areas. The committee is also building partnerships through its Matsudo Gardening Network, formed to enable information sharing and collaboration among the various citizens' groups active in their own localities.

Results

Based on the results on activities and recommendations of the committee which have been achieved since 2000, the 2008 revised Master Plan for Parks and Open Spaces positioned the Green Community Initiative as an overarching body that brings together citizens, businesses, local government, community groups, schools and universities, and is empowered to resolve issues surrounding urban greening.

Matsudo city aims at urban planning based on collaborative input from all stakeholders.

目的・趣旨

松戸市では、平成10年度に策定した緑の基本計画を受けて、平成12年に市民・有識者・緑関係団体代表者で構成する緑推進委員会を設置しました。緑推進委員会は、行政への提言だけでなく、実現可能なものについては積極的にそれらを試行し、更に自立的・継続的な活動に発展させています。

活動内容

緑の基本計画の推進にあたっては、緑推進委員会が計画の点検と評価、及び見直しと改善を実践しています。具体的には、緑のまちづくりの基本理念となる「松戸みどりの市民憲章」の制定や「みどりの行動会議」による市民を中心とした様々な取組みを行ってきました。

また、所有者による管理が行われず、存在意義が見出せない樹林地における、新たな担い手育成を目的とした「里やまボランティア入門講座」を立ち上げ、樹林地管理のパートナーシップを確立する枠組み作りや、地域ごと、個別に活動していた市民グループの情報共有と連携を目的とした「松戸花壇づくりネットワーク」を立ち上げて、パートナーシップを確立する枠組みを作り、市民と共に活動してきました。

成果

平成12年度から現在まで続く「緑推進委員会」の活動や提言の成果を踏まえ、平成20年度に改定した緑の基本計画では、市民、企業、行政、市民団体、学校・大学などの結束により、緑に関する課題を解決する力を「みどりの市民力」として計画全体に位置づけました。

松戸市では、今後も市民や様々な団体との連携・協働によるまちづくりを目指しています。

松戸市緑推進委員会

第5期委員会の活動報告と提言

この提言書は、平成 22年 6月 29日に第 5期緑推進委員会から市長に提言された内容を広く市民の皆様にお知らせするために作成しました。

・発行 松戸市緑推進委員会

・問い合わせ先

松戸市 都市整備本部 都市緑花担当部 みどりと花の課

TEL 047-366-7378 FAX 047-368-9595

メール mcmidori@city.matsudo.chiba.jp